

特集

市政トピックス

うだちから

まちのわだい

みんなで子育て

病院・ウェルネス

お知らせ

掲示板

うだチャン



密着！地域おこし協力隊

鳥獣被害担当 問 農林課 (☎ 82・3679 / IP ☎ 88・9090)
 薬草事業担当 問 商工業課 (☎ 82・5874 / IP ☎ 88・9075)

地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方自治体が地域の暮らしなどに興味がある人材を受け入れ、地域おこし協力隊として委嘱します。地域おこし活動の支援や地域の活性化、農林水産業への従事など地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を目指す取り組みです。

全国で増加中

令和2年度時点で、約5,500人の隊員が全国で活動しています。総務省ではこの隊員数を令和6年度に8,000人に増やすことを目標に掲げています。隊員の任期は決まっていますが、任期後も約63%の隊員が同じ地域に定住し、引き続き、行政関係の仕事を行う以外にも、観光業や農林漁業、地域づくり・まちづくり支援など地域に根差した業務に従事する方が多く、「地域おこし協力隊」という肩書きがなくなっても、地域の担い手として活動しています。

無限の可能性

行政だけではできなかった柔軟な考えや政策を隊員とともに考え、実行していくことで、地方創生につなげていくことができます。地域おこし協力隊×地域×地方公共団体の3者がともに協働することで、大きな影響を与えることができます。

地域産業の

発展を担う

市では現在10人の地域おこし協力隊が活動しています。地域の実情に応じて、地域おこし協力隊の活動内容は変わりますが、市では、「薬草を活用したまちづくり」を進めるため、薬草の発育に関する助言・収穫作業の調整や薬草出荷管理などの薬草生産者の方との関係構築、「鳥獣の被害軽減対策による農林水産業の振興」のため、猟友会と連携した鳥獣の捕獲や鳥獣侵入防止柵の設置指導および技術指導等の活動。ロート製菓・奈良県と「大和高原の魅力ある仕事づくりに関する連携協定」を締結した3者で「市内で起業家を育成・創出するため、大和高原（宇陀市）の仕事づくり（ネクスト）コモンズラボ奥大和（宇陀）」に取り組んでいます。

隊員の活動を紹介

市では令和3年6月に薬草と鳥獣被害対策に関しての地域おこし協力隊を任命しました。今回は、この3人の日々の活動について紹介します。

土づくりは基礎づくり

土を起こしたり、耕したり、葉草が育ちやすい環境づくりは欠かせません。この作業は雑草が生えないよう畝の間の土を左右の畝に振り分けています。振り分けた土で、葉が覆われないようにする必要があり、難しいです！



ただの花じゃないんです

ただの花のように見えるかもしれませんが、これも葉草の一種で「福寿草」というものです。太陽が出ている間しか、花びらが開かない珍しい性質も持っているんです！この日は天気も良く、花が見れました。



大和当帰のオイル抽出を見学

宇陀松山まち協の皆さんが大和当帰のオイルを抽出しているところを見学させていただきました。当帰のすっきりとした香りが最高でした！葉草を使った事業のアイデアの参考になりました。



原野 悦良さん (森野旧薬園葉草栽培管理者)
葉草について熱い情熱を持っている！

久保田さんは葉草の知識を深めるため、毎週、私の下に葉草の栽培方法について学びに来られています。葉草に関して、勉強熱心で体力もあり、栽培作業も手伝ってくれて、感謝しています。葉草を使った地域の活性化について、自分なりの目標や熱い思いも持っておられます。これからは、培った知識を広めてもらい、宇陀という葉草に強い関わりを持つ地域で、多くの人に葉草について興味を持ってもらえるよう活動をがんばってほしいです。



宇陀市の葉草をもっと世に広めたい！

祖父が宇陀市出身で、僕も前職で宇陀市を訪れる機会が多くありました。僕のルーツの地と感じており、宇陀市をもっと盛り上げたいと日に日に思うようになり、その時に市の地域おこし協力隊の応募を見て、隊員になることを決意しました。

自身この健康を考えた時に、古来からある漢方などに興味を持ち、「葉草を活用したまちづくり」を進めている宇陀市で葉草を使った活動ができるのではないかと考えたこと

も、地域おこし協力隊に応募したきっかけのひとつです。主な活動は大和当帰の栽培管理、葉草協議会が行っている大和当帰生産者への苗の販売や収穫した葉や根の買い取り・出荷作業の手伝いを行っています。他にも、大和当帰を知ってもらうための県内外へのPR活動や葉草の葉の活用方法の考案について活動しています。新しい商品を作るため、葉草の専門家に会いに行ったり、葉草に関する研修に参加し、日々アイデアを考えています。活動を通じて、多くの人と話したりすることは、刺激になります。農業経験があまりなく、葉草の栽培等を始めたので、試行錯誤の毎日ですが、葉草が元気に育っていくのを見て、やりがいを感じます。葉草を活用し、市外の観光客にも宇陀市まで足を運んでもらい、市民の方にも葉草についてより知ってもらい、これからは、まち全体が元気になる活動を行っていききたいと思います。

鳥獣被害対策のため、市内の各地にワナ設置中

市内の農作物などの鳥獣被害を減らすために、各所にワナを設置し、パトロールを行っています。宇陀市は鹿などによる被害が非常に多く、被害を抑えるためにパトロールやワナの点検が重要です。



※設置後は、周辺に張り紙やマークを付けて、人が誤って、ワナの設置個所に立ち入らないように、注意喚起のお知らせをしています。危険ですので、もしワナの設置個所を見つけても近づかないようご注意ください！



大型ワナの点検

人が入れるほどの檻ワナも市内数か所に設置しています。ITの発展により、この檻ワナはスマホのアプリから檻のドアを閉めることができます。檻の中に動物が侵入すると通知が来るようになっています！アプリで、随時様子を確認しています！



人間と野生動物ともに

市では野生鳥獣により、令和2年度で被害面積28.69ha、被害金額1288.4万円の被害があり、年々増加傾向にあります。鳥獣被害の防止を図るためには、地域の状況に応じて、「被害状況の把握」、「加害個体の分析」などが必要になります。僕たちは、地域の方に正しいワナの設置方法や、被害状況などの相談を受け、対処方法について相談に乗ったりしています。しかし、ワナを設置するだけでは、問題の解決にはなりません。被害要因の分析をし、地域ぐるみでの問題の認識・対策が必要になります。人間と野生動物がともに暮らしやすい環境を作っていくためにこれからもがんばります。



鳥獣被害に困る人々のために

市の狩猟者育成プログラムを受講し、狩猟や有害鳥獣の駆除、野生鳥獣による農林業被害対策、捕獲鳥獣の利活用、将来の捕獲の担い手となる人材確保について学んだことで、衝撃を受け、このような業務に取り組みたいと思うようになりました。このような市の取り組みに少しでもお手伝いできればと思い、地域おこし協力隊に応募しました。普段は鳥獣被害に悩む方々のために、対策として各所にワナを設置し、市内をパトロールし

ています。鳥獣被害に遭った市民の方からの連絡があれば、現場に駆け付け、今後の対策を考えたり、相談に乗ったりしています。鳥獣の生態についても日々勉強しています。鳥獣被害に困る方々、野生動物の命、それぞれの立場を常に考えさせられる仕事であり、また、野生動物が相手の仕事なので、捕獲や駆除など、大変ではありますが、困っている方に直面する活動なので、やりがいを感じます。

今後は、農家や先輩の猟師の方々に少しずつ顔を覚えてもらい、鳥獣被害に困ったときに声をかけてもらえる存在になれるようにがんばります。今後市内では、獣肉加工施設もできる予定で、捕獲した個体はジビエにもなり、宇陀市からできる取り組み、宇陀市に来てもらえる、知ってもらえる取り組みを考え、実行できるように活動に取り組みたいです。